



SBS ホールディングス

For Your Dreams.

2022年12月期
第2四半期

決算説明会



目次

2022年12月期
第2四半期決算概要 お
よび
2022年度通期見通し
執行役員 五味 夏樹
... P4~

SBSグループの成長戦略
代表取締役 鎌田 正彦
... P20~



SBS ホールディングス

For Your Dreams.

2022年12月期 第2四半期決算概要 および 2022年12月期通期の見通し

**執行役員 財務・I T・L T 統括責任者
五味 夏樹**

阿見第二物流センター火災について

1. 発生日時
2022年6月30日発生 2022年7月5日鎮火
2. 発生場所
SBSフレック(株) 阿見第二物流センター（茨城県稲敷郡阿見町星の里6-1）
3. 発生原因
現在、消防により調査中
4. 被害状況
 - ・ 人的被害は、6月30日に工事関係者が1名、喉の痛みを訴え搬送されましたが、既に回復し退院
 - ・ 第二センター建物・設備は、全損につき解体。延焼した第一センター建物・設備は、損傷状況について調査中
 - ・ 各取引先の倉庫保管品等の被害状況については、調査および協議対応中
 - ・ 出荷への影響については、代替拠点の提案を含め、各取引先と協議対応中
5. 保険の付保状況
第二センターおよび第一センターの固定資産簿価：5,944百万円
上記に係る保険の付保の状況：6,700百万円（現時点で受取額は未定）
6. 業績への影響
当第2四半期決算において、4,614百万円（全損した第二センター建物・設備および現時点までに確定している取引先の商品の損失）を火災損失として特別損失に計上しております。
今後さらに被災した第一センターの建物・設備、焼失した取引先の商品等の損失発生の可能性があります。現時点では合理的な見積りが困難であり計上しておりません。また、保険金の受取額についても現時点で確定していないため計上しておりません。
今後、算定が可能となった段階で速やかに公表いたします。

皆様には多大なるご迷惑、ご心配をおかけしておりますこと深くお詫び申し上げます。

2022年12月期2Q 連結業績 [対予想比]

- 海外事業が海上・航空運賃の高騰、円安の影響を受け好調だったほか、国内グループ会社におけるECなどの宅配、企業間物流が堅調に推移し、売上高、営業利益ともに公表予算を達成。売上高は過去最高を更新。
- 阿見の火災損失46億円を特別損失に計上したことにより当期純利益は大幅な未達。

(単位：百万円)

	22年度2Q					
	予想値	構成比	実績値	構成比	差異額	達成率
売上高	205,000	100%	216,852	100%	11,852	105.8%
営業利益	6,800	3.3%	8,343	3.8%	1,543	122.7%
経常利益	6,200	3.0%	8,248	3.8%	2,048	133.0%
当期純利益	4,800	2.3%	1,895	0.9%	△2,904	39.5%

2022年12月期2Q 連結業績 [対前年同期比]

- 海外事業が海上・航空運賃の高騰、円安の影響を受け好調。SBS古河物流の損益を連結したことや国内既存グループ会社におけるECなどの宅配、企業間物流が堅調に推移し、売上高は過去最高を更新。
- 不動産事業については減収減益。前年同期は南港物流センターの不動産流動化を実施（売上高149億円、営業利益51億円）、当期は下期を予定。
- 本社移転費用・制服刷新費用（7億円）のほか、燃料や光熱費の高騰（5億円）により営業利益減益。
- 阿見の火災損失46億円を特別損失に計上したことにより当期純利益減益。

(単位：百万円)

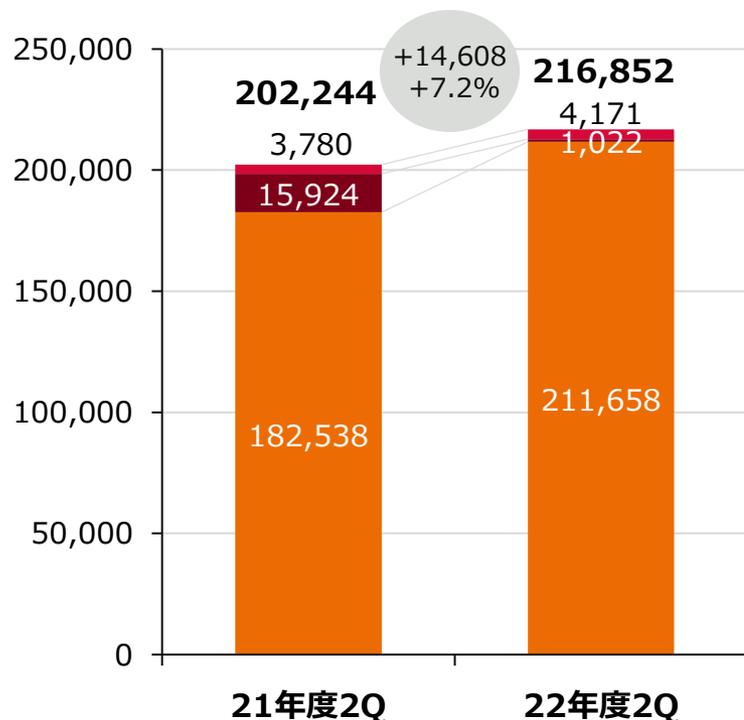
	21年度2Q		22年度2Q			
	実績値	構成比	実績値	構成比	増減額	増減率
売上高	202,244	100%	216,852	100%	14,608	7.2%
営業利益	13,969	6.9%	8,343	3.8%	△5,626	△40.3%
経常利益	13,936	6.9%	8,248	3.8%	△5,687	△40.8%
当期純利益	7,809	3.9%	1,895	0.9%	△5,913	△75.7%

セグメント別業績 [対前年同期比]

- 物流事業は、海外事業が好調だったほか、SBS古河物流の連結、既存グループ会社の企業間物流が堅調だったもの、本社移転費用・制服刷新費用（7億円）、燃料・光熱費の高騰（5億円）により減益。
- 不動産事業においては、前年同期は南港物流センターの不動産流動化を実施（売上高149億円、営業利益51億円）、当期は下期を予定。

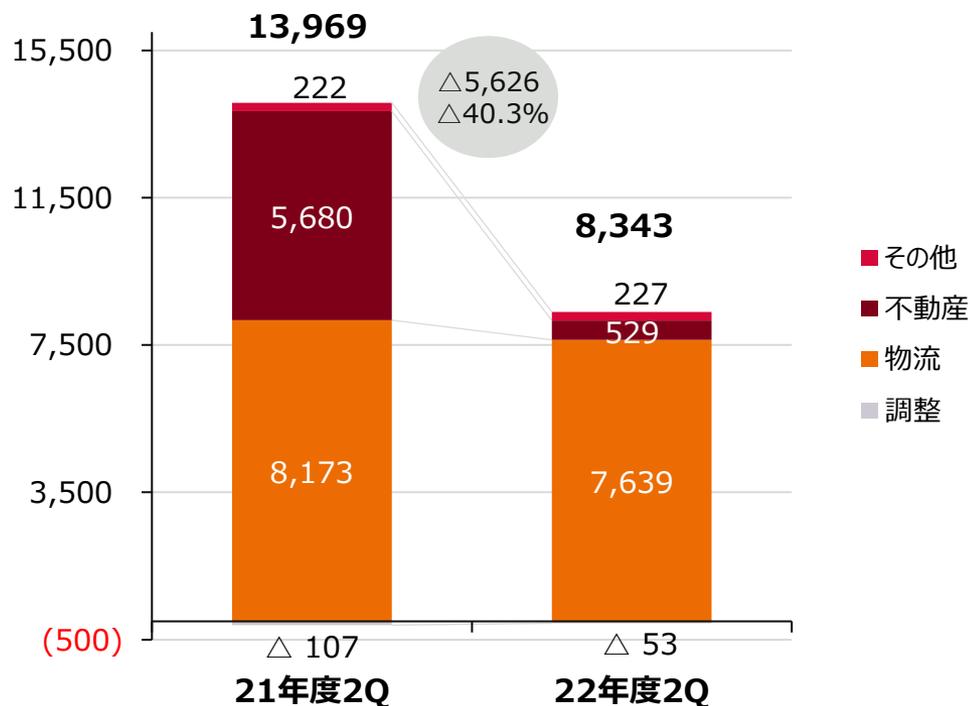
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)

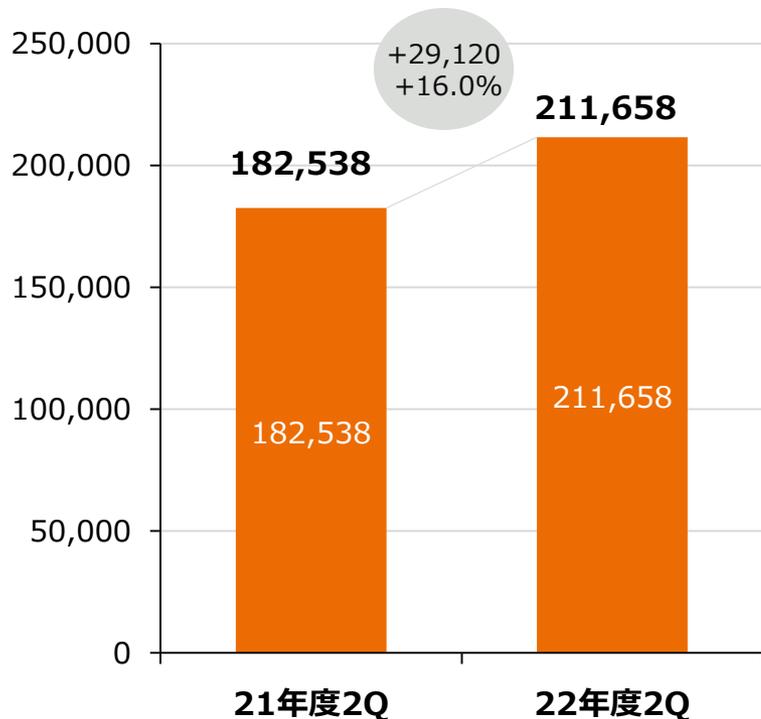


物流セグメント [売上高・営業利益]

- 海外事業が海上・航空運賃の高騰、円安の影響を受け好調。既存グループ会社におけるECなどの宅配、企業間物流が堅調に推移し、売上高は過去最高を更新。
- 本社移転費用・制服刷新費用（7億円）のほか、燃料や光熱費の高騰（5億円）により営業利益減益。

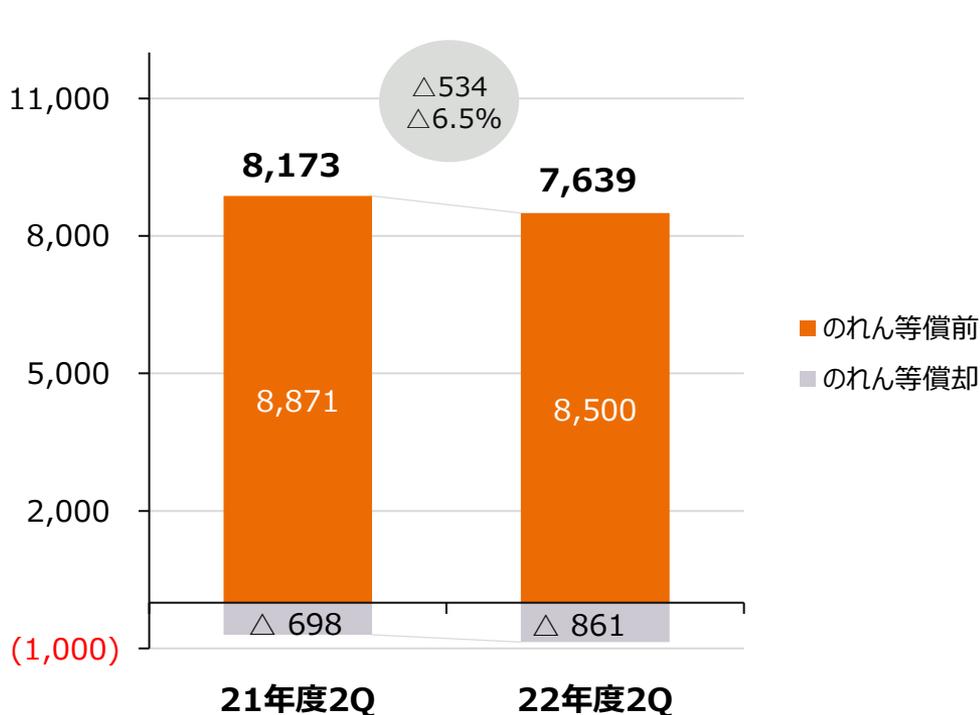
売上高

(単位：百万円)

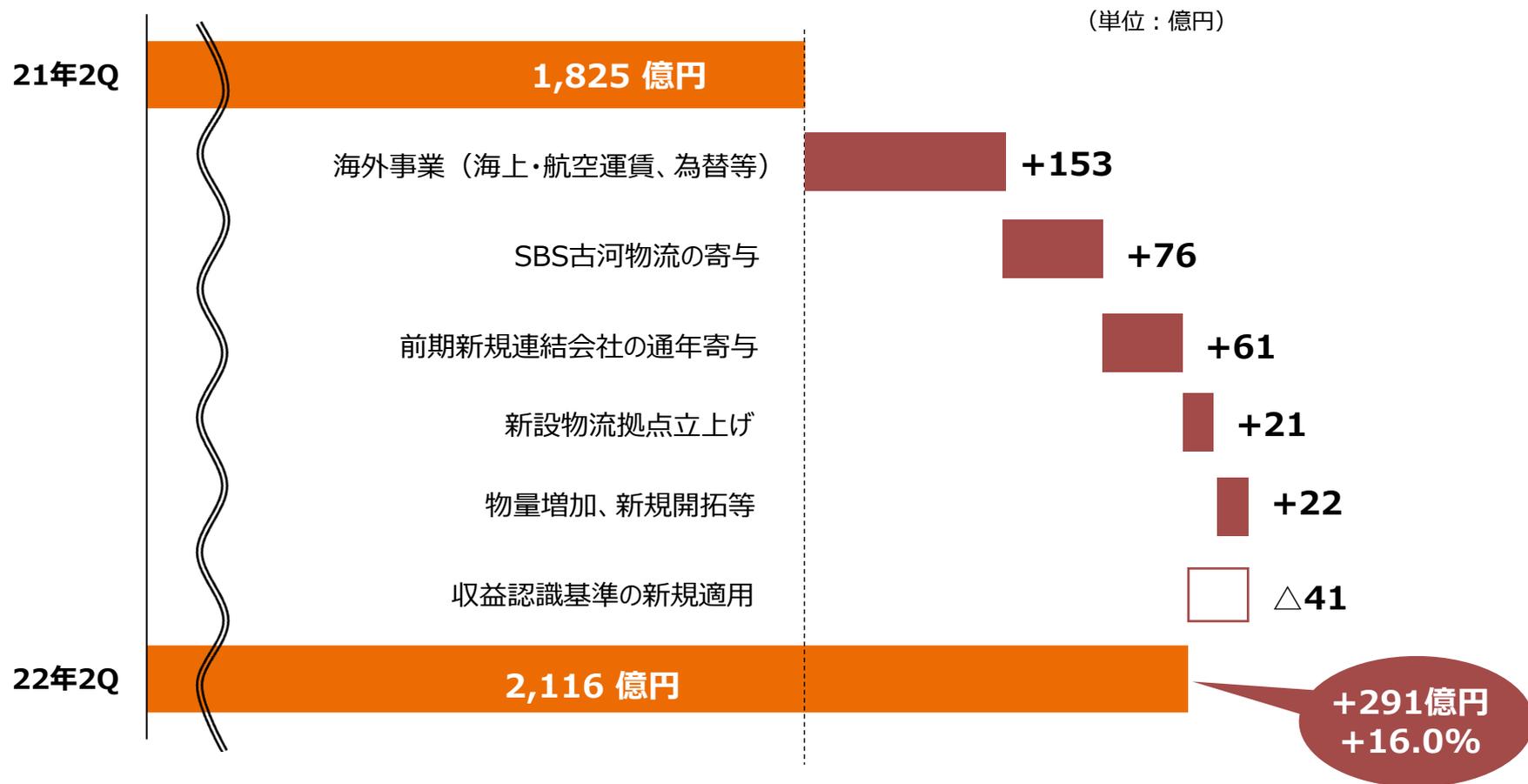


営業利益

(単位：百万円)

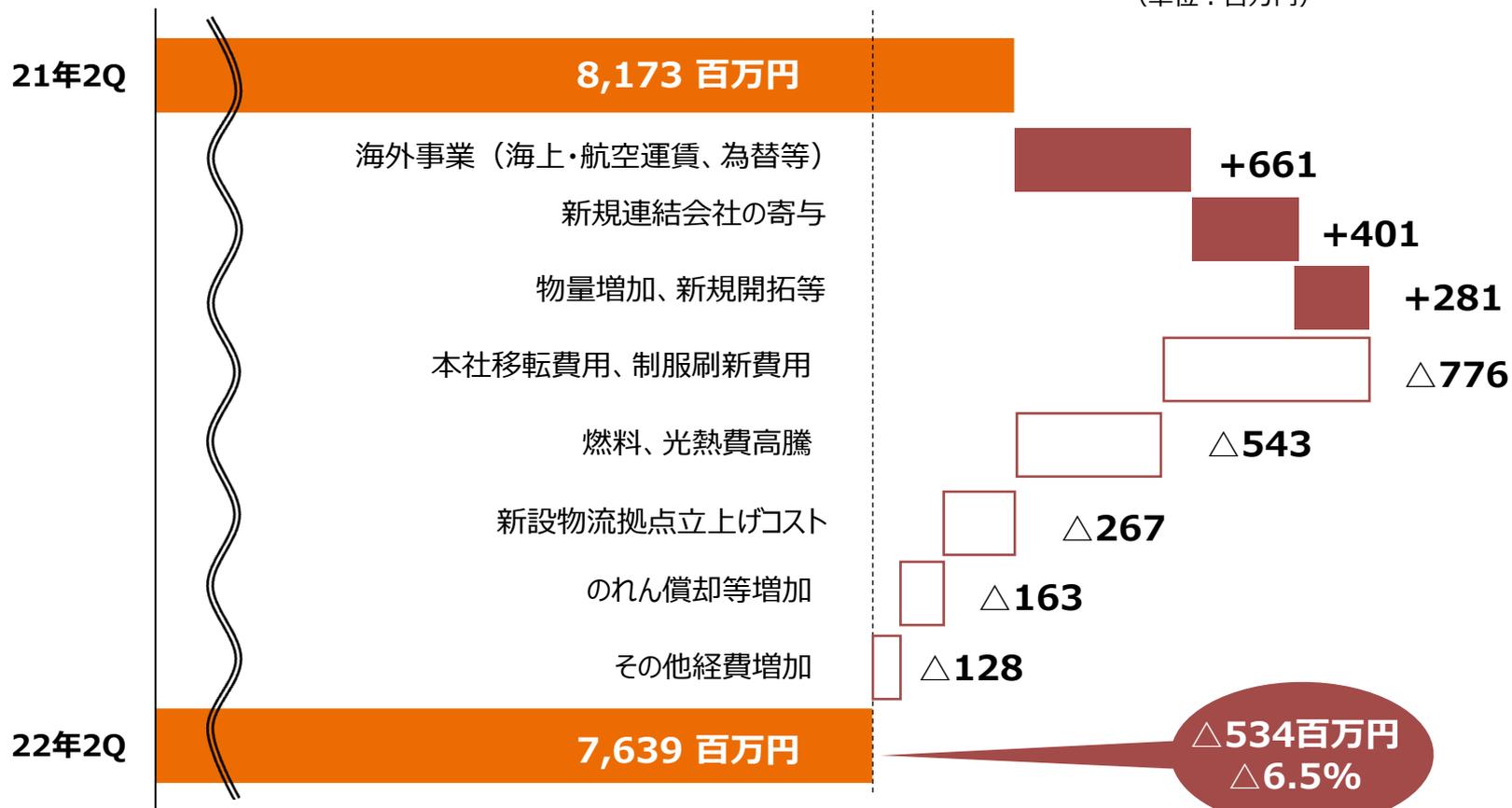


物流セグメント売上高 [増減分析]



物流セグメント営業利益 [要因分析]

(単位：百万円)

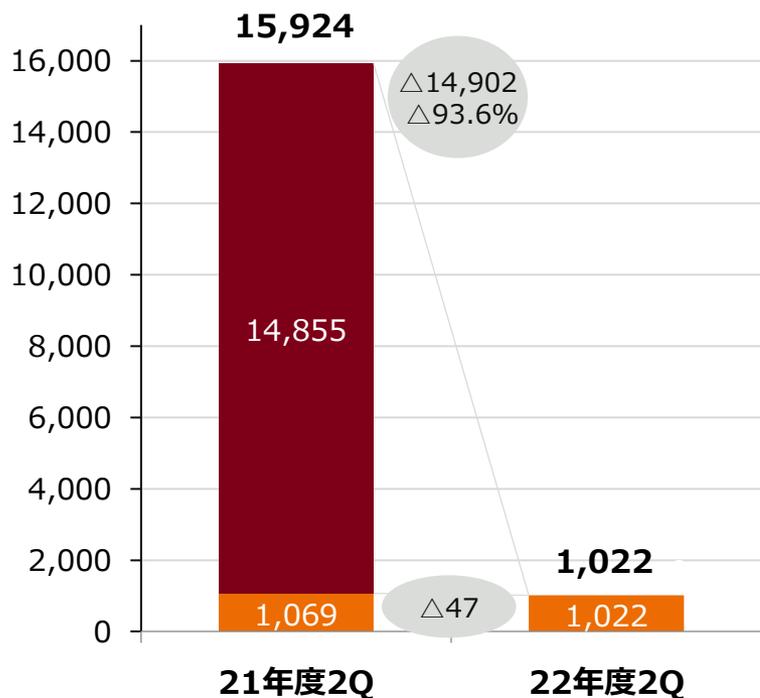


不動産セグメント [売上高・営業利益]

- 前年同期は南港物流センターの不動産流動化を実施（売上高149億円、営業利益51億円）、当期は下期を予定。

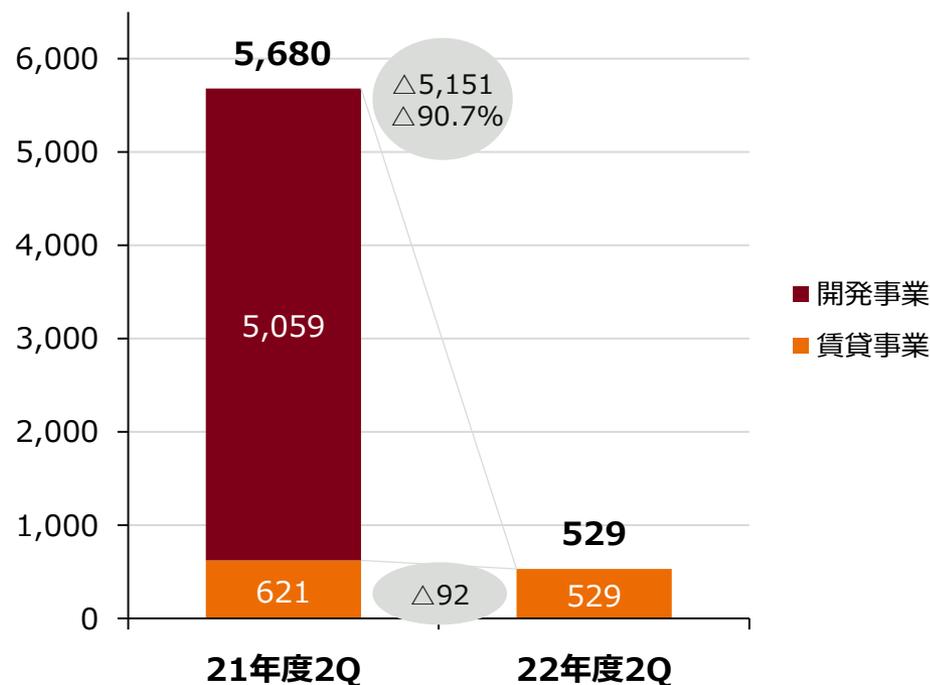
売上高

(単位：百万円)



営業利益

(単位：百万円)



※ 開発事業：物流施設を建設し機関投資家等に売却（流動化）する事業

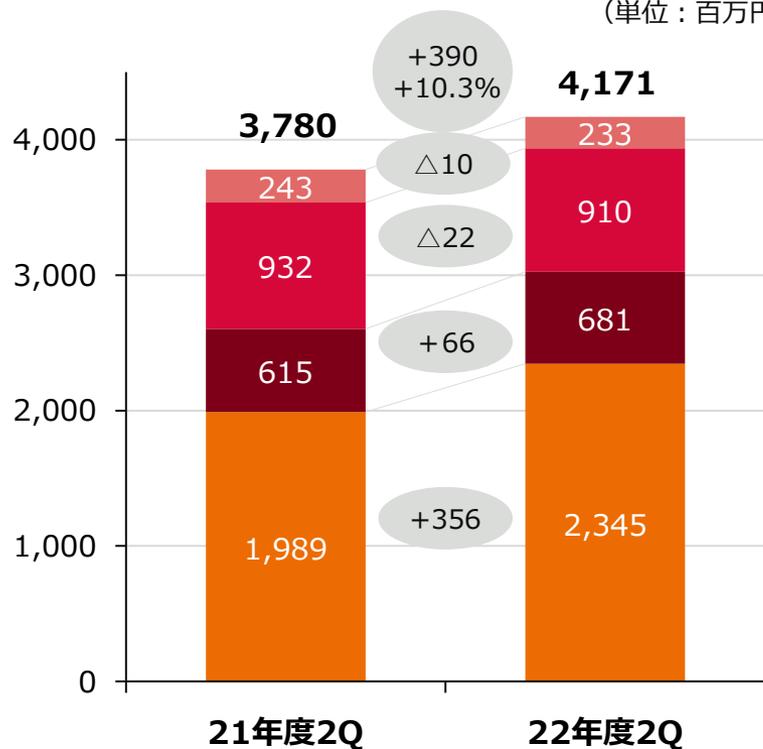
※ 賃貸事業：保有する物流施設、オフィスビル、レジデンス等を賃貸する事業

その他セグメント [売上高・営業利益]

- 環境事業が堅調で増収増益。

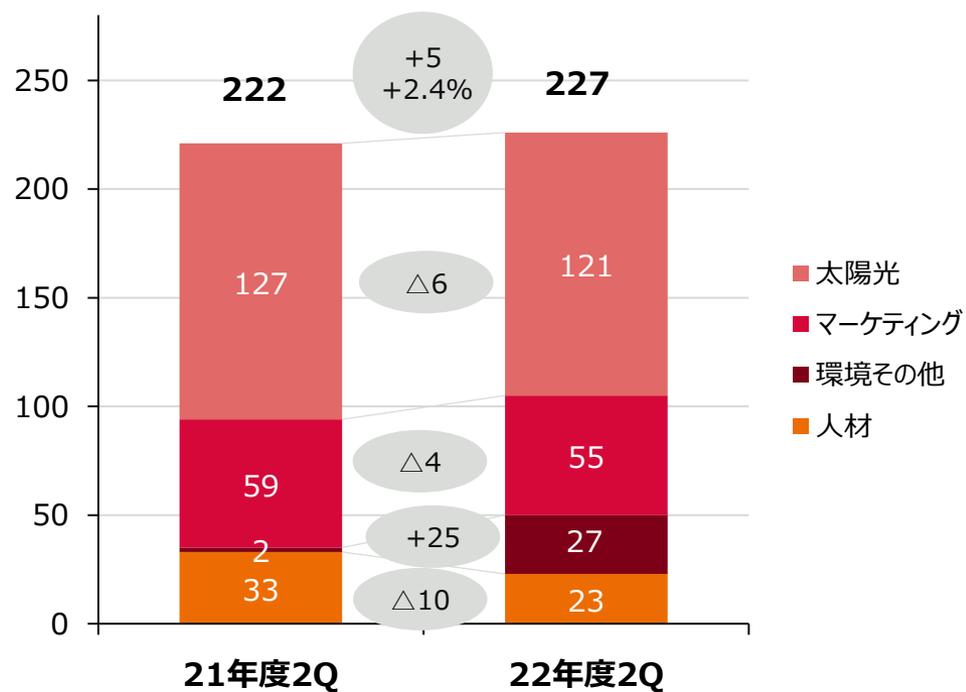
売上高

(単位：百万円)



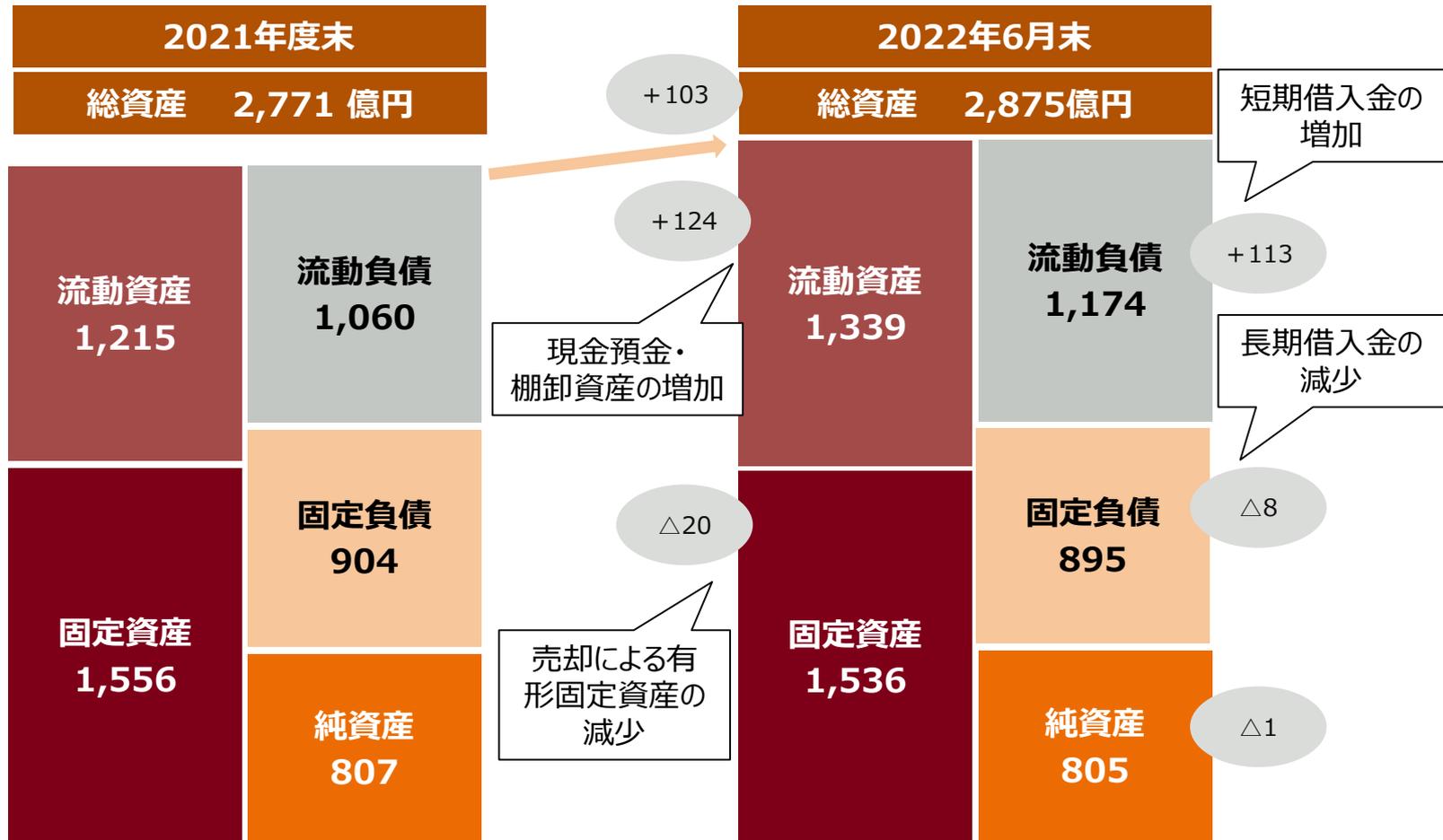
営業利益

(単位：百万円)



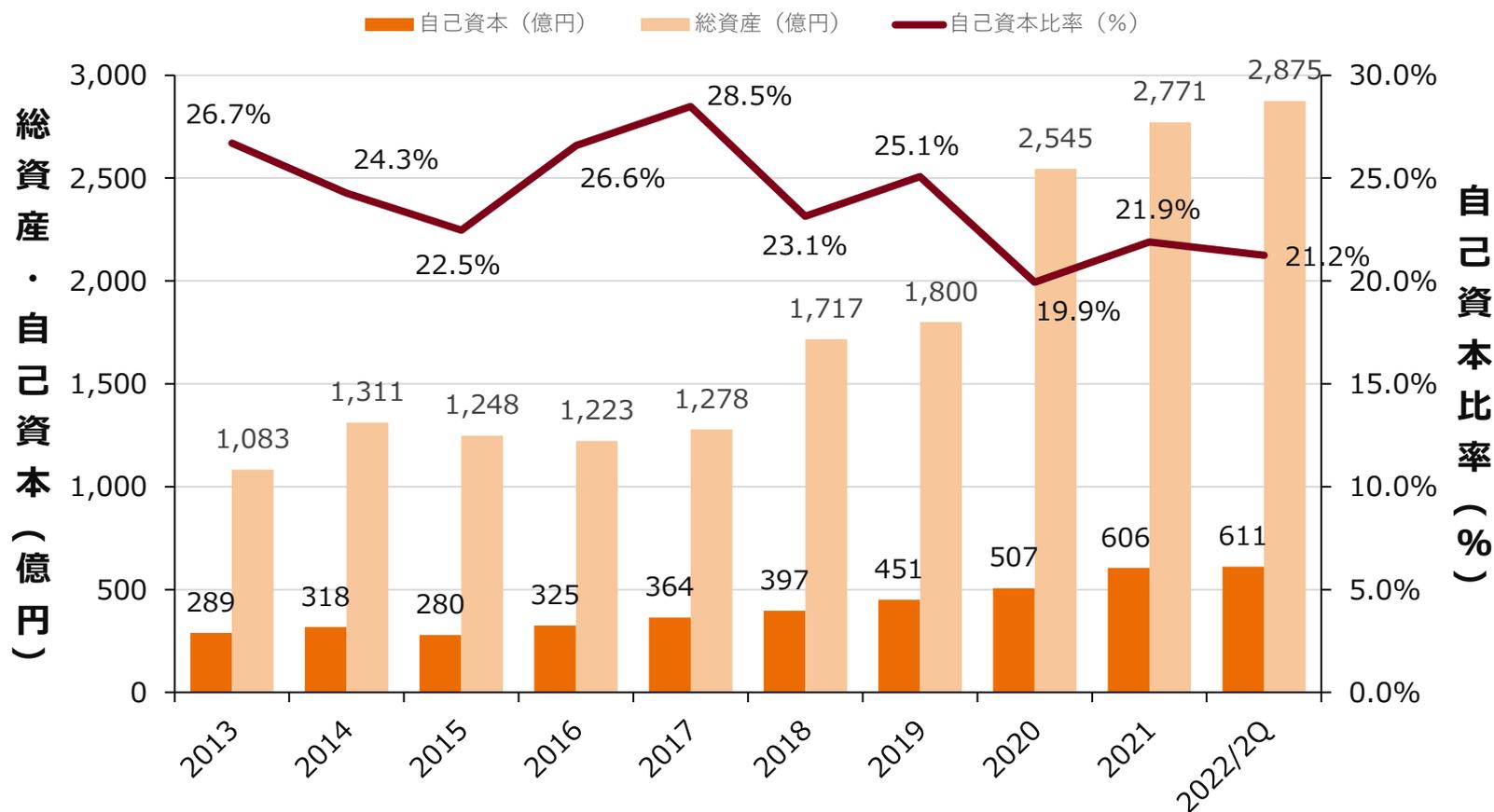
連結貸借対照表 [対前期末比]

- 物流センター等の設備投資、短期借入により増加。



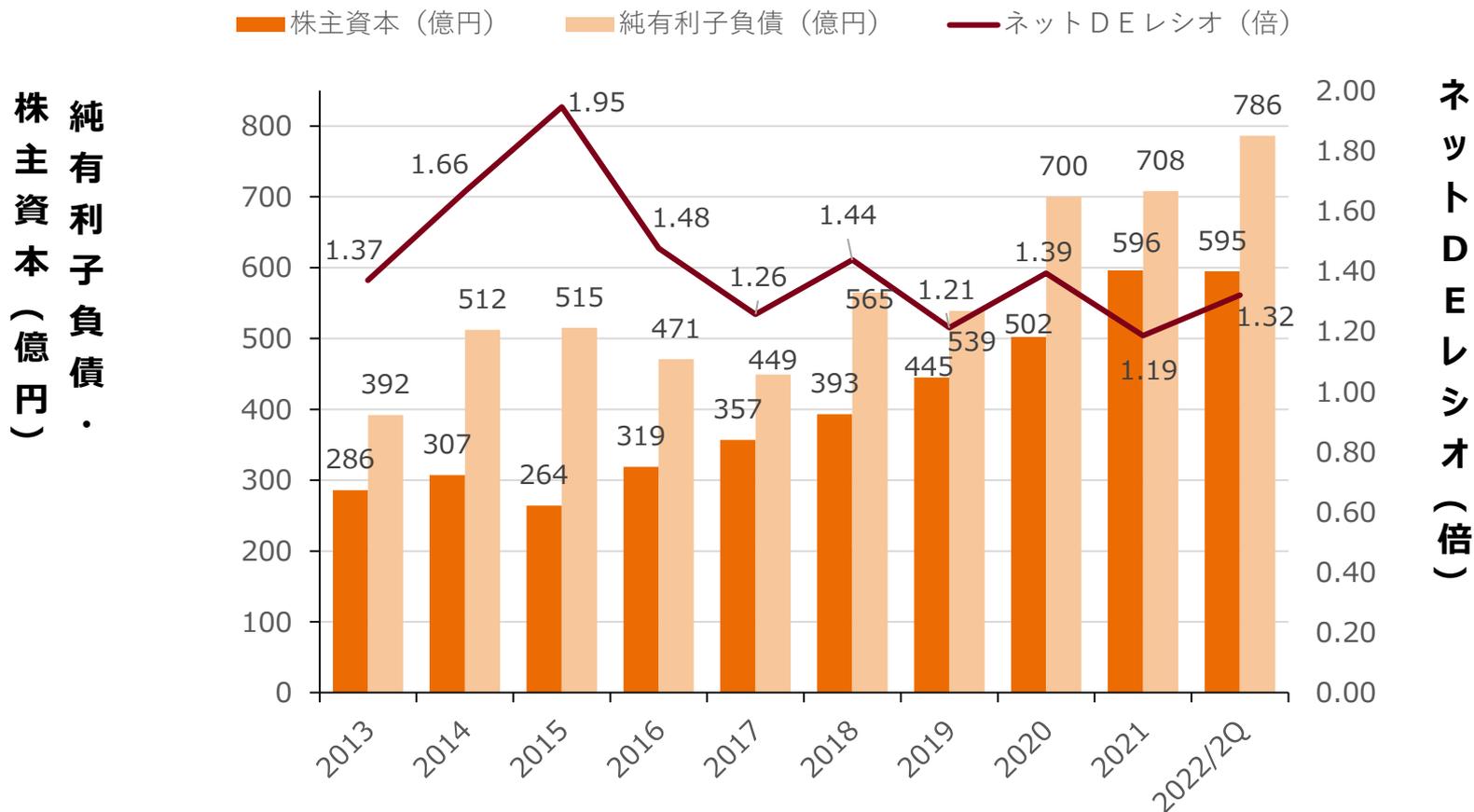
自己資本比率

- 2020年度はM&Aの影響で低下したものの、2021年度は利益の積み上げで改善。当2Qは火災損失の計上により低下。



有利子負債・ネットDEレシオ

- 2015年度にピークをつけて以降は低減傾向。2018年度・2020年度はM&Aの影響で一時的に上昇し、当2Qは設備投資資金等の借入により上昇。



(注) 純有利子負債にはリース債務を含めておりません。

2022年12月期 連結業績予想

- SBS古河物流の業績取り込みやEC通販の拡大、販売用不動産の流動化などにより増収増益。
- 売上高・営業利益ともに、5期連続で過去最高を更新する見通し。
- 当期純利益は、現時点では火災による影響額を見積もることが困難であるため、未定。

(注) 売上高、営業利益、経常利益については本年2月10日公表から変更なし

(単位：百万円)

	2021年度		2022年度			
	実績値	構成比	予想値	構成比	増減額	増減率
売上高	403,485	100%	430,000	100%	26,514	6.6%
営業利益	20,706	5.1%	21,500	5.0%	793	3.8%
経常利益	20,489	5.1%	20,600	4.8%	110	0.5%
当期純利益	10,790	2.7%	—	—	—	—

セグメント別業績予想

- 【物流事業】SBS古河物流の収益取り込みが加わるものの、本社移転や制服刷新などの一過性の費用等により減益予想となるが、一過性の費用を除いた場合は実質増益の見込み。
- 【不動産事業】販売用不動産の流動化による利益拡大。

(単位：百万円)

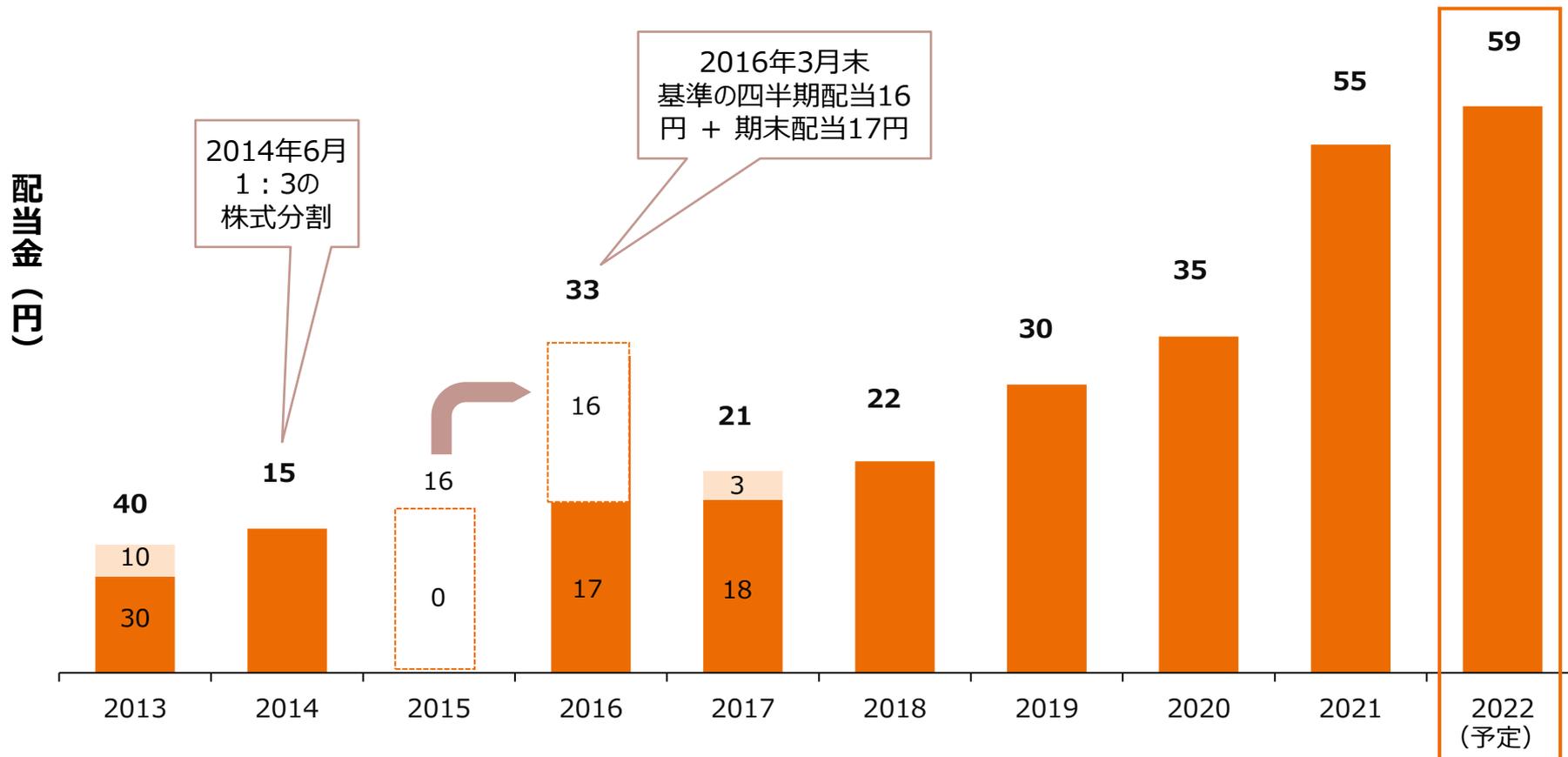
セグメント		2021年度			2022年度		
		実績値	組替	組替後実績値	予想値	増減額	増減率
物 流	売上高	378,335	—	378,335	403,600	25,265	6.7%
	営業利益 利益率	15,546 4.1%	△938	14,608 3.9%	13,900 3.4%	△708	△4.8%
不 動 産	売上高	17,043	—	17,043	17,100	57	0.3%
	営業利益 利益率	6,333 37.2%	—	6,333 37.2%	7,500 43.9%	1,167	18.4%
そ の 他	売上高	8,106	—	8,106	9,300	1,194	14.7%
	営業利益 利益率	435 5.4%	—	435 5.4%	400 4.3%	△35	△8.0%
調 整 額	売上高	—	—	—	—	—	—
	営業利益 利益率	△1,609 —	938	△671 —	△300 —	371	△55.3%

(注) 2021年度はSBSHDにおいて予算外の費用計上（本社移転、広告費など）の影響により調整額のマイナスが増加したが、当該費用は予算内であれば物流セグメントに組み替えられるものであるため、組み替えのうえ2022年度予想と比較

株主還元 [1株あたり配当金の推移]

- 継続的な配当維持と業績に応じた配当水準の向上に努めることが基本方針。
- 1株当たり配当金（予定）は過去10年で約6倍と、株主還元を強化。

■ 普通配当 ■ 記念配当





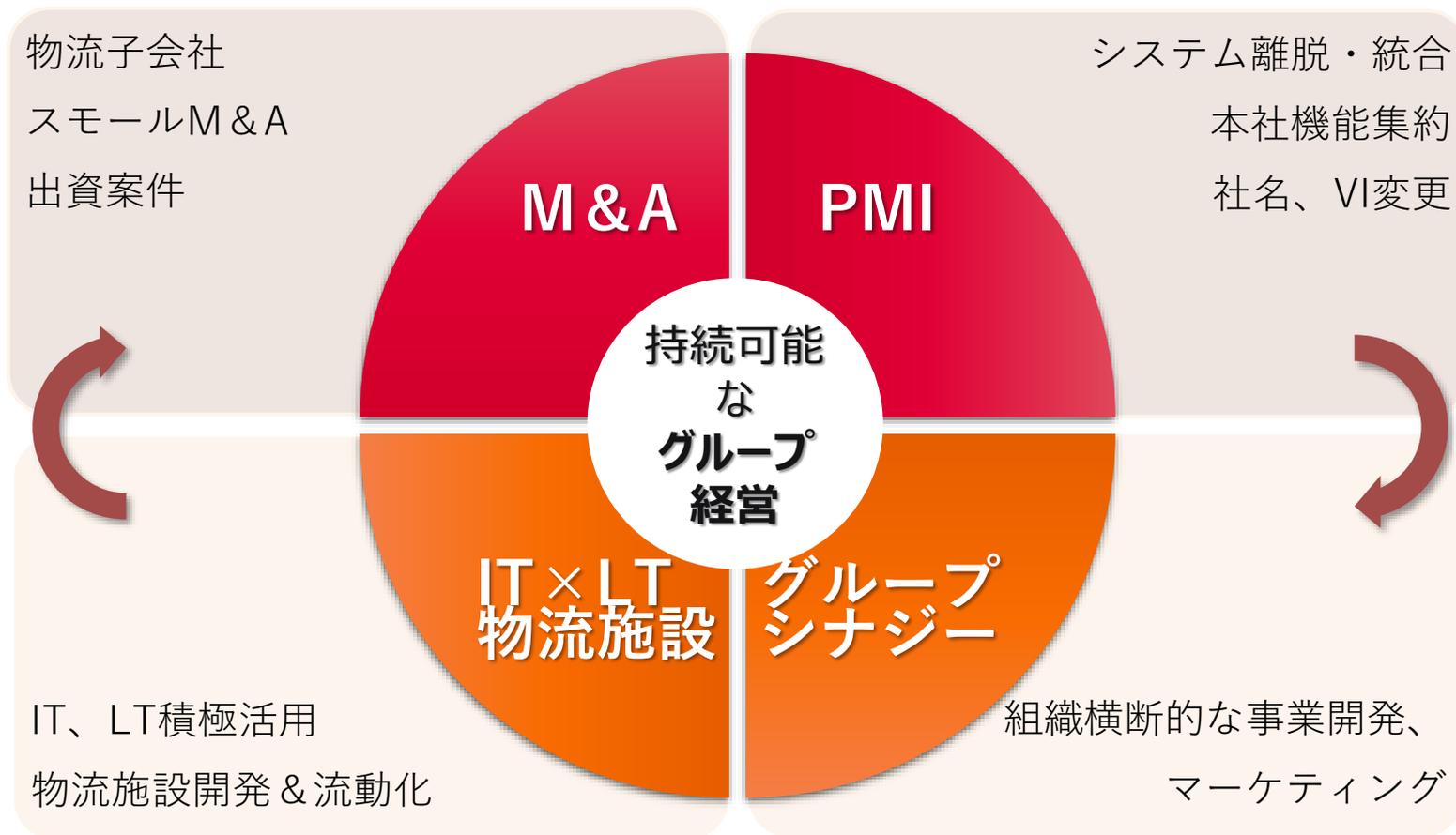
SBS ホールディングス
For Your Dreams.

SBSグループの成長戦略

代表取締役 **鎌田 正彦**

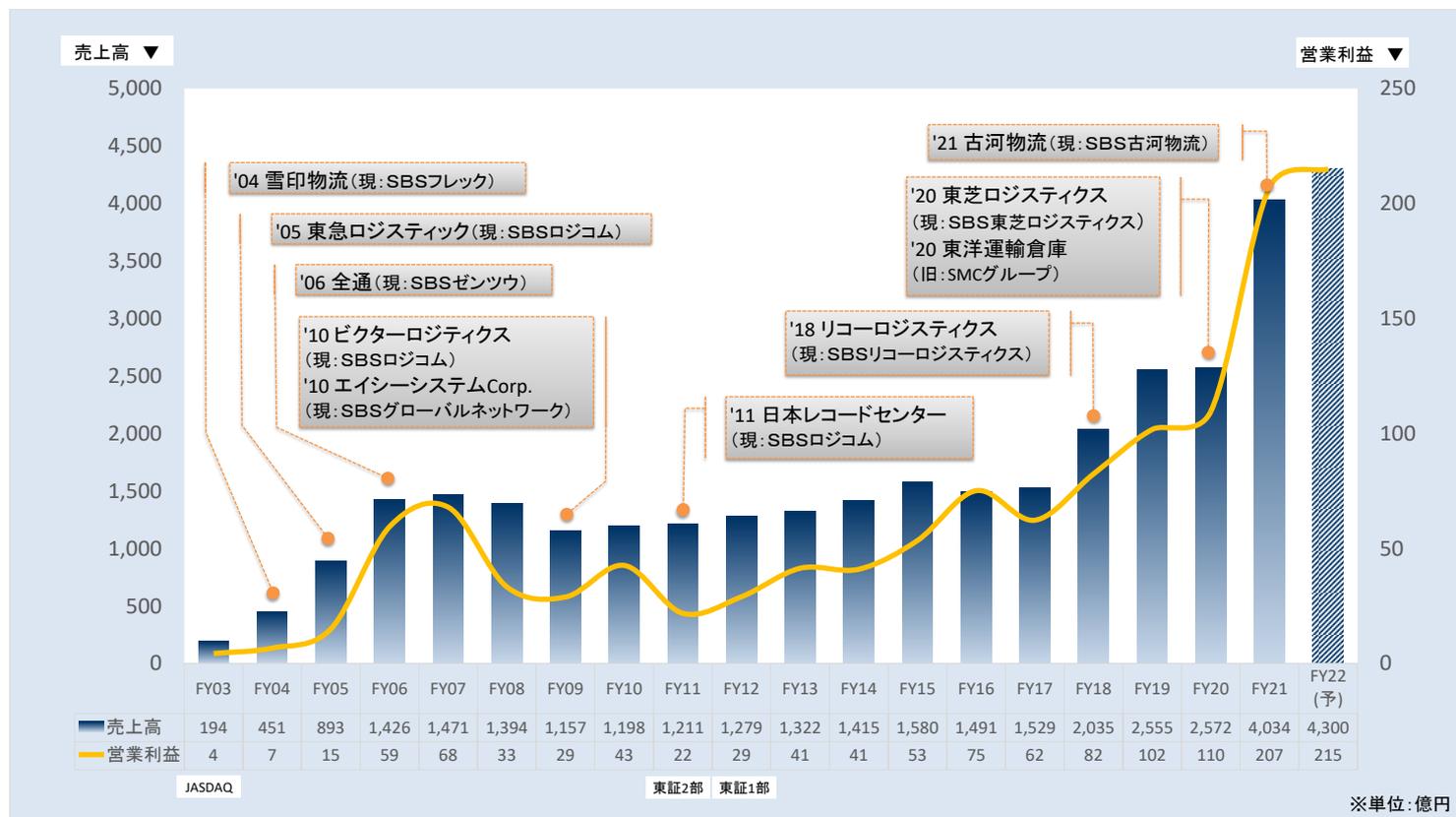
SBSグループ成長戦略

- M&Aを通じた非連続的成長と物流事業の自律的成長が有機的に作用。
- グループシナジー創出の基盤となるPMIは、国内屈指の実績を有する。



SBSグループのM&A実績推移

- '03上場翌年からM&Aを成長戦略の柱に据え、大手企業の物流子会社を中心に施策展開
- ナショナルブランド各社の優れた組織風土、人材を通じて企業価値を向上
- FY03→FY21実績：投資総額約 **830 億円** / 売上高 **12 倍** / 営業利益 **24 倍**



FY22上期（1-6月）トピックス

● 成長戦略取り組み状況：各戦略とも計画どおりに進捗

	M&A、出資	PMI、シナジー	IT、LT	物流施設
1月	<ul style="list-style-type: none"> SBS古河物流 連結 	<ul style="list-style-type: none"> 海外現法、海外事業再編PJ 	<ul style="list-style-type: none"> グループウェア統一（O365） グループポータル刷新 AIロボット最適化制御稼働（BC横浜金沢） 	
2月		<ul style="list-style-type: none"> EC物流開発PJ 2nd.フェーズ稼働 SBS東芝ロジスティクス新本社稼働 		<ul style="list-style-type: none"> [着工]BC一宮
3月	<ul style="list-style-type: none"> イオンネクストデリバリーへ出資 	<ul style="list-style-type: none"> 新本社グランドオープン 	<ul style="list-style-type: none"> ロボットショールーム開設@新本社 	
4月	<ul style="list-style-type: none"> 創友EXIT（未来投資1号→SBSフレックネット） 		<ul style="list-style-type: none"> LT4種稼働（印西物流） 共同型ロボットPOC(※)開始 	<ul style="list-style-type: none"> [着工]野田瀬戸BC A棟
5月	<ul style="list-style-type: none"> EMCへ出資（未来投資第3号） 		<ul style="list-style-type: none"> 高層型ロボットPOC実施 	<ul style="list-style-type: none"> [開設]BC厚木(賃貸)
6月			<ul style="list-style-type: none"> LTラボ構築開始 	<ul style="list-style-type: none"> [開設]ロジランド東大阪(賃貸)

※POC: Proof of Concept: 概念実証(実証実験)

M&A、出資案件

● 「スモールM&A」および出資の実績（2022年1月～6月）

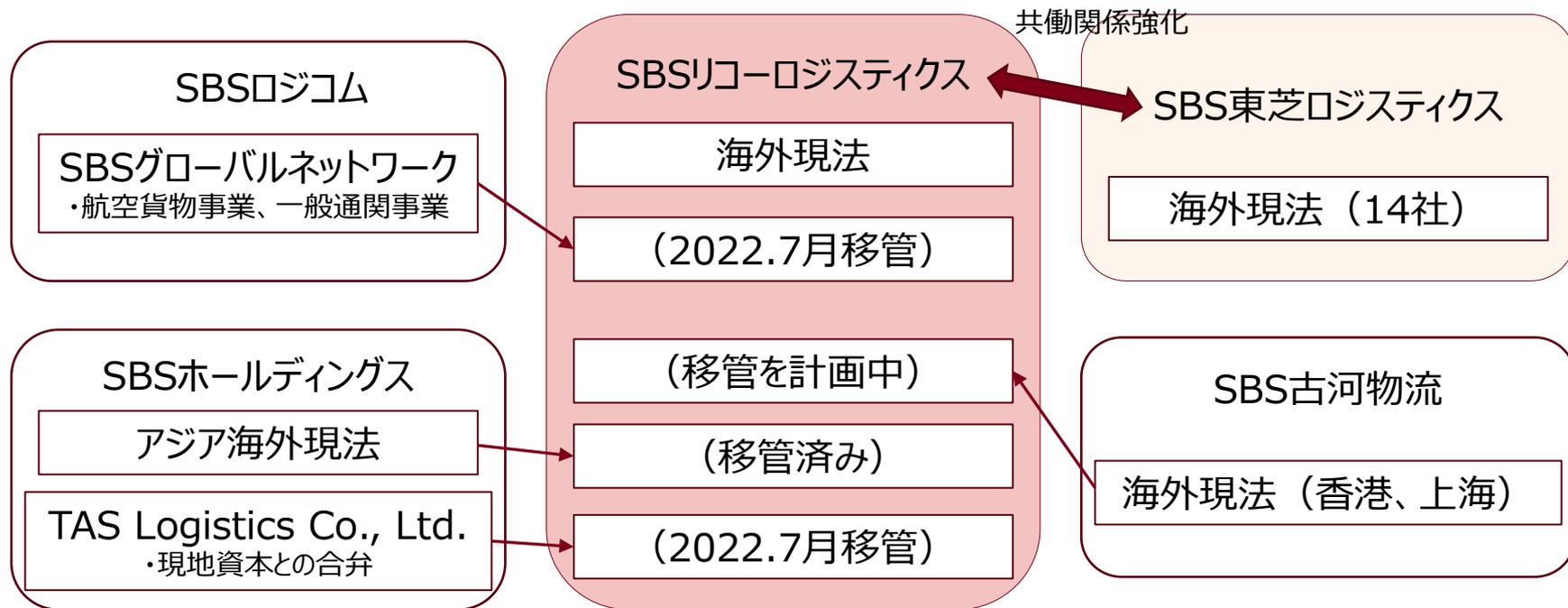
時期	内容	目的、効果
3月	イオンネクストデリバリー(株) へ出資決定	EC宅配物流機能の強化
4月	日本物流未来投資 ^(※1) から (株)創友 の株式を取得し、SBSフレックネット(株)と合併	千葉県北部で冷凍・チルド食品の輸配送を担う
4月	日本物流未来投資が (株)EMC の株式取得	SPL ^(※2) 事業、緊急輸送ノウハウのグループ内取り込み

(※1) 日本政策投資銀行とSBSホールディングス(株)との共同出資。2022年2月、日本物流未来投資ファンドから名称変更

(※2) Service Parts Logistics、保守用部品に関する倉庫内作業等の請負事業

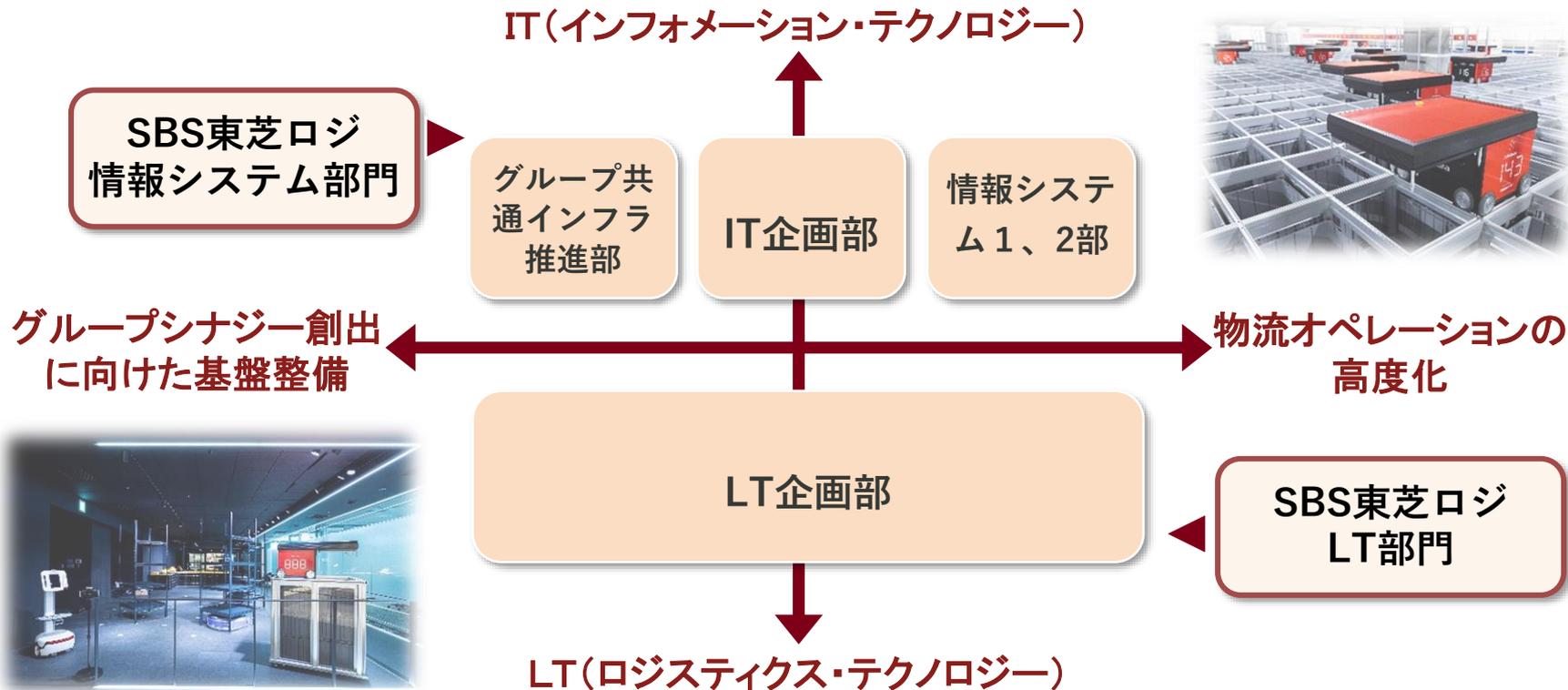
PMIの進捗

- SBS東芝ロジスティクス（2020年株式取得）、SBS古河物流（2021年株式取得）のPMI…
 - ✓ 基幹システムの離脱・統合は順調に進捗
 - ✓ 本社機能を西新宿に集約（SBS東芝ロジスティクスは既実施、SBS古河物流は計画中）
- SBSリコーロジスティクス（2018年株式取得）のPMI進展に伴い、グループ内の海外事業推進体制を整理・強化



IT×LTを具現化する組織体制

- SBSグループのITおよびLTにかかる組織は5部門約146名体制。
東芝ロジスティクスの63名を加え209名体制で、SBSグループのIT化、LT化を推進。
- プロパー、中途、出向者などから構成された、多様性の高い組織。
- ITとロジスティクス、2つ以上の専門性を有するプロフェッショナル集団。



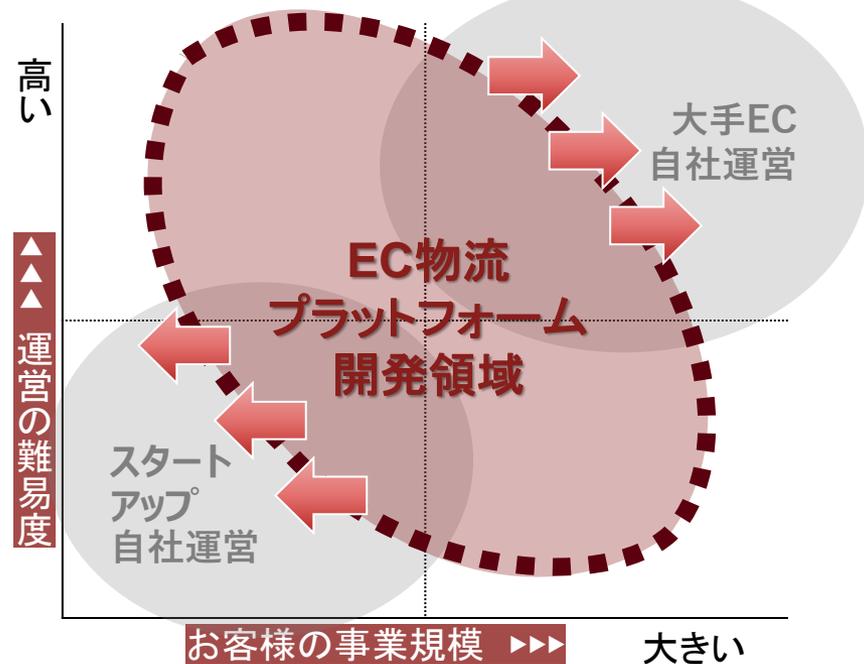
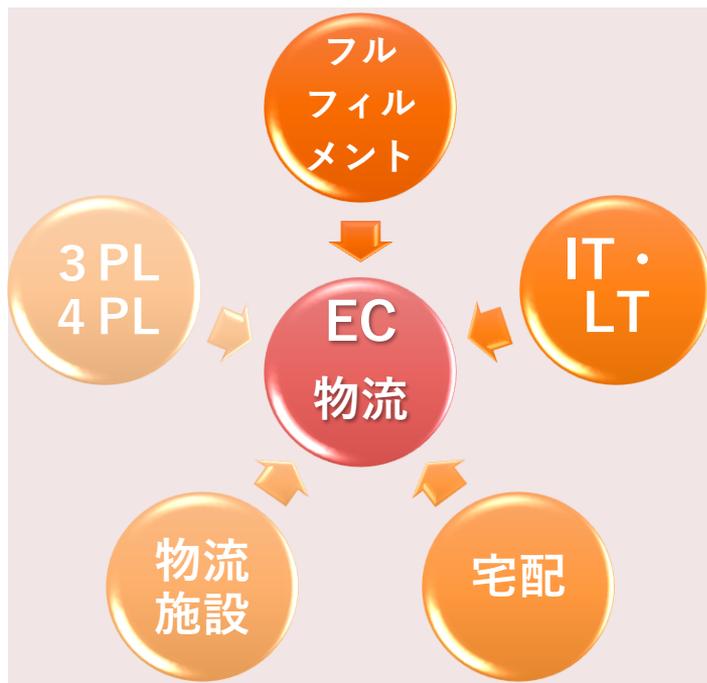
事業シナジー創出に向けた各種PJ

- PJ単位で幹事会社（部門）を設定し、グループ横断し情報収集や作業のとりまとめを行う
- 若手・中堅社員を中心にチームを組成、柔軟性と迅速な意思決定のもと推進

	ラストワン マイルPJ& YCお届け便	EC物流 PJ	国際 物流	LT	IT	物流施設
SBS東芝ロジ		○	○	○		
SBSリコーロジ	○	○	◎	○	○	○
SBSロジコム	○	○		○	○	○
SBSフレック		○		○	○	
SBS即配サポ	◎			○	○	
SBSゼンツウ					○	
SBSグローバルNW			○		○	
SBS古河物流			○			
東洋運輸倉庫		○			○	
マーケティングPT		○				
SBSアセットM					○	◎
SBSHD	◎	◎		◎	◎	

物流事業：戦略PJ「EC物流」

- SBSグループの総合物流力を、EC物流にフォーカスしプラットフォームを構築
- オペレーションの「難易度(複雑さ)」と「規模」をセグメンテーションし、お客様の成長プロセスごとに最適なソリューションを実現



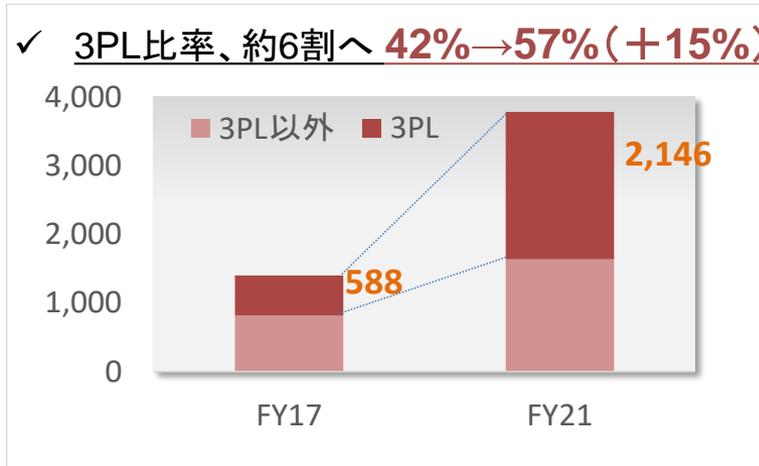
FY30までに、EC物流売上高 1,000億円！

物流事業：事業構成比率の変化 (FY17→FY21：5年間)

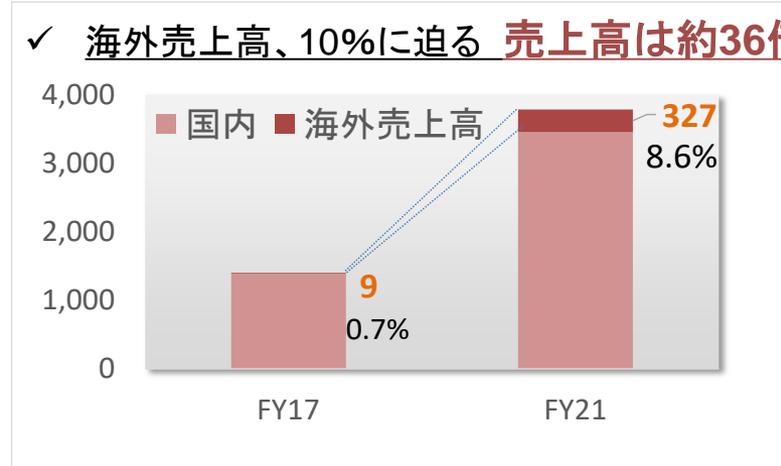
● SBSリコーロジスティクスの連結以降、物流事業におけるサービス構成が大きく変化

(単位：億円)

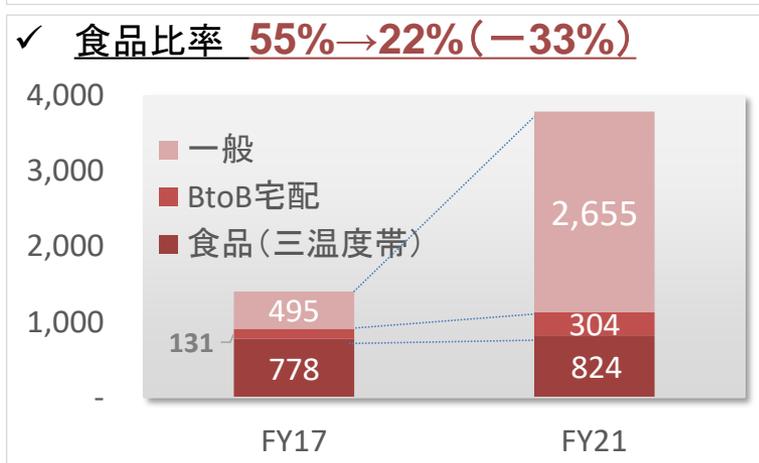
✓ 3PL比率、約6割へ 42%→57%(+15%)



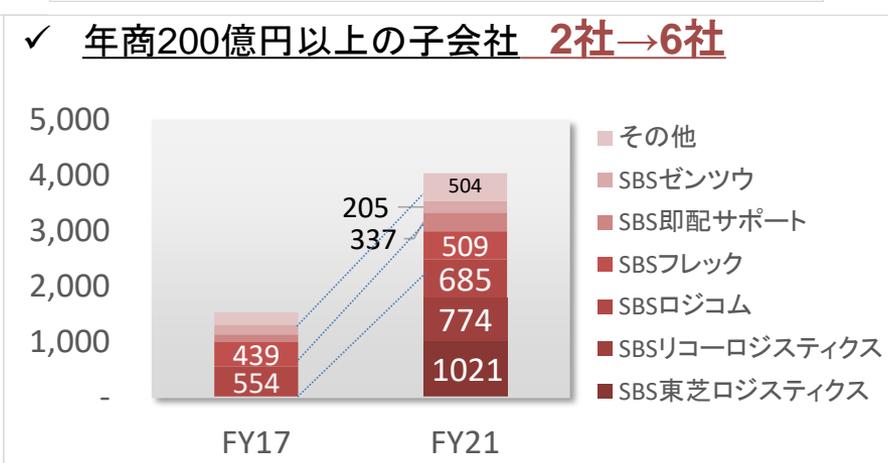
✓ 海外売上高、10%に迫る 売上高は約36倍



✓ 食品比率 55%→22%(-33%)



✓ 年商200億円以上の子会社 2社→6社



物流事業：運営面積増床進捗

※100坪未満四捨五入

- 着工2棟：BC一宮（SBSリコーロジスティクス）、野田瀬戸A棟（SBSアセットマネジメント）
- 賃借3棟：BC厚木（SBSリコーロジスティクス）、LOGILAND東大阪（SBSロジコム）等

名称	所在地	稼働(連結)時期	種別	延床面積/坪	運営会社
2020年12月末までの運営面積				531,000	
SBS東芝ロジスティクス	全国各地	2021年1月	M&A	200,000	SBS東芝ロジスティクス
東洋運輸倉庫	神奈川、東京	2021年1月	M&A	18,000	東洋運輸倉庫
物流センター横浜金沢	神奈川	2021年11月	自社開発	16,200	SBSリコーロジスティクス
SBS古河物流	全国各地	2022年1月	M&A	23,000	SBS古河物流
物流センター厚木(※)	神奈川	2022年5月	一棟賃借	17,400	SBSリコーロジスティクス
大阪石切支店	大阪	2022年6月	一棟賃借	4,900	SBSロジコム
2022年6月末の運営面積				279,500	
市川コールドセンター(仮称)	千葉	2022年10月	賃貸	2,611	SBSゼンツウ
物流センター一宮	愛知	2023年4月	自社開発	21,100	SBSリコーロジスティクス SBSアセットマネジメント
大阪市住之江区	大阪	2023年4月	一棟賃借	6,100	SBS東芝ロジスティクス
野田瀬戸A棟	千葉	2024年1月	自社開発	50,800	SBSアセットマネジメント
野田瀬戸B棟	千葉	計画中	自社開発	39,500	SBSアセットマネジメント
富里土地	千葉	計画中	自社開発	30,000	SBSアセットマネジメント
所沢土地A	埼玉	計画中	自社開発	10,000	SBSロジコム
所沢土地B	埼玉	計画中	自社開発	4,500	SBS即配サポート
2022年6月以降の増床計画				164,611	
運営面積合計(既存+計画中)				975,111 坪	

※(仮称)物流センター厚木森の里から変更

※100坪未満四捨五入

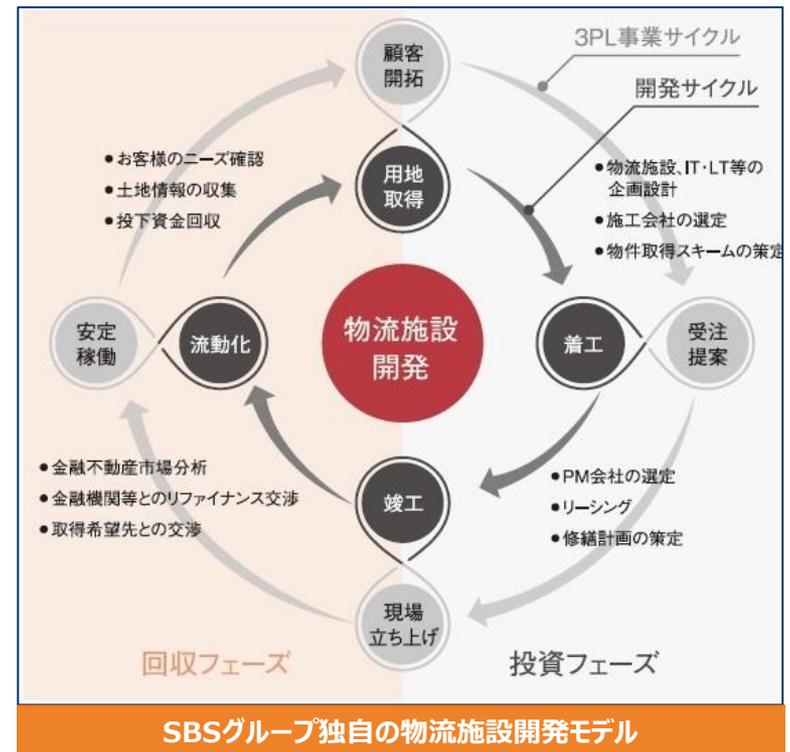
不動産事業：概要、ビジネスモデル

● 物流施設開発・流動化

- 通常、売却規模はボラティリティが生じないように調整しながら実行。
- FY21実績：南港物流センター（5月）
売上高：148億円／営業利益：50億円

FY22下期に計画：BC横浜金沢

- SBSロジコム所有、SBSリコーロジスティクスが一括賃借。大手EC専用3PLセンターとして運営。
- 最先端のIT、LT機器を導入し、高付加価値物流施設として稼働中。



● 賃貸事業

- 首都圏中心に、ロードサイド店舗、レジデンス、都心オフィスなど約30物件を運営。

不動産事業：パイプライン動向

● 野田瀬戸物流センター A 棟 SBSアセットマネジメント

- ・ 22年4月着工、24年1月竣工(予定)
- ・ **SBSグループ初のEC物流専用センターとして計画中**

(仮称) 野田瀬戸物流センターA棟 概要

建設地	千葉県野田市瀬戸字池袋 145番1号 ほか
交通	常磐自動車道「柏」ICから約5km
敷地面積	73,271.57m ² (22,164.68坪)
延床面積 構造規模	167,867.79m ² (50,780.00坪) RCS造地上4階建



● 物流センター一宮 (仮称) SBSリコーロジスティクス

- ・ 22年1月着工、23年3月竣工(予定)
- ・ SBSグループ初の中部エリアにおける物流施設開発

物流センター一宮 (仮称) 概要

建設地	愛知県一宮市千秋町小山字東仲田27番地
交通	・名神高速道路「一宮」ICから約4.0km ・名古屋鉄道 名鉄名古屋駅から岩倉駅まで急行列車で約15分岩倉駅から名鉄バス利用で約10分。
敷地面積	29,683.52m ² (8,979.26坪)
延床面積 構造規模	69,578.42m ² (21,947.47坪) RCS造+S、地上4階



- **4月：「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に選定／SBSHD**

グローバルインデックスプロバイダー「FTSE Russell」が、各セクターにて相対的に環境、社会、ガバナンス（ESG）の対応に優れた日本企業のパフォーマンスを反映するインデックス。GPIFがESG指数として採用を決定、7,600億円規模で運用開始しています。

▶詳細はこちら：[FTSE Blossom Japan Sector Relative Index](#)

- **6月：第23回物流環境大賞において「サステナブル活動賞」「特別賞」受賞／SBS東芝ロジスティクス**

物流における環境保全の推進や環境意識の高揚等を図ることを目的とした物流環境大賞。サステナブルな社会の実現に貢献し優れた改善事例に贈られる「サステナブル活動賞」1件と、環境保全のため物流の健全な発展に貢献した事業者へ贈られる「特別賞」4件を受賞しました。

▶プレスリリースはこちら：[第23回物流環境大賞において「サステナブル活動賞」および「特別賞」を受賞](#)

- **6月：東京大学先端物流科学特論講座に登壇／SBSHD LT企画部**

東京大学「先端物流科学寄付研究部門」は、先端技術による物流業界の課題解決やそれに向けた高度人材の育成などを目的に設置され、複数の物流企業の出資により設立された教育機関。SBSグループも2020年から参画しています。当日は、SBSグループの成長戦略や、LTの導入事例などを約100名の大学院生たちに講演しました。

▶プレスリリースはこちら：[LT企画部が東京大学先端物流科学特論講座で講演](#)

2022年12月期 経営方針

- 物流業界トップティアとして、独自の存在感を発揮するための基盤構築

1. 輸配送機能の有機的連携拡充と強化
2. 国際事業連携の機能整理
3. IT・LTの戦略的導入、提案強化
4. 3PL・4PLで競争力のある分野への拡大営業推進
5. グループ横断的に各制度やシステムの共通化を図り、グループ組織力を強化

ロジ×ITで持続的成長を実現する
「メガベンチャー」に！



SBS GROUP

For Your Dreams.